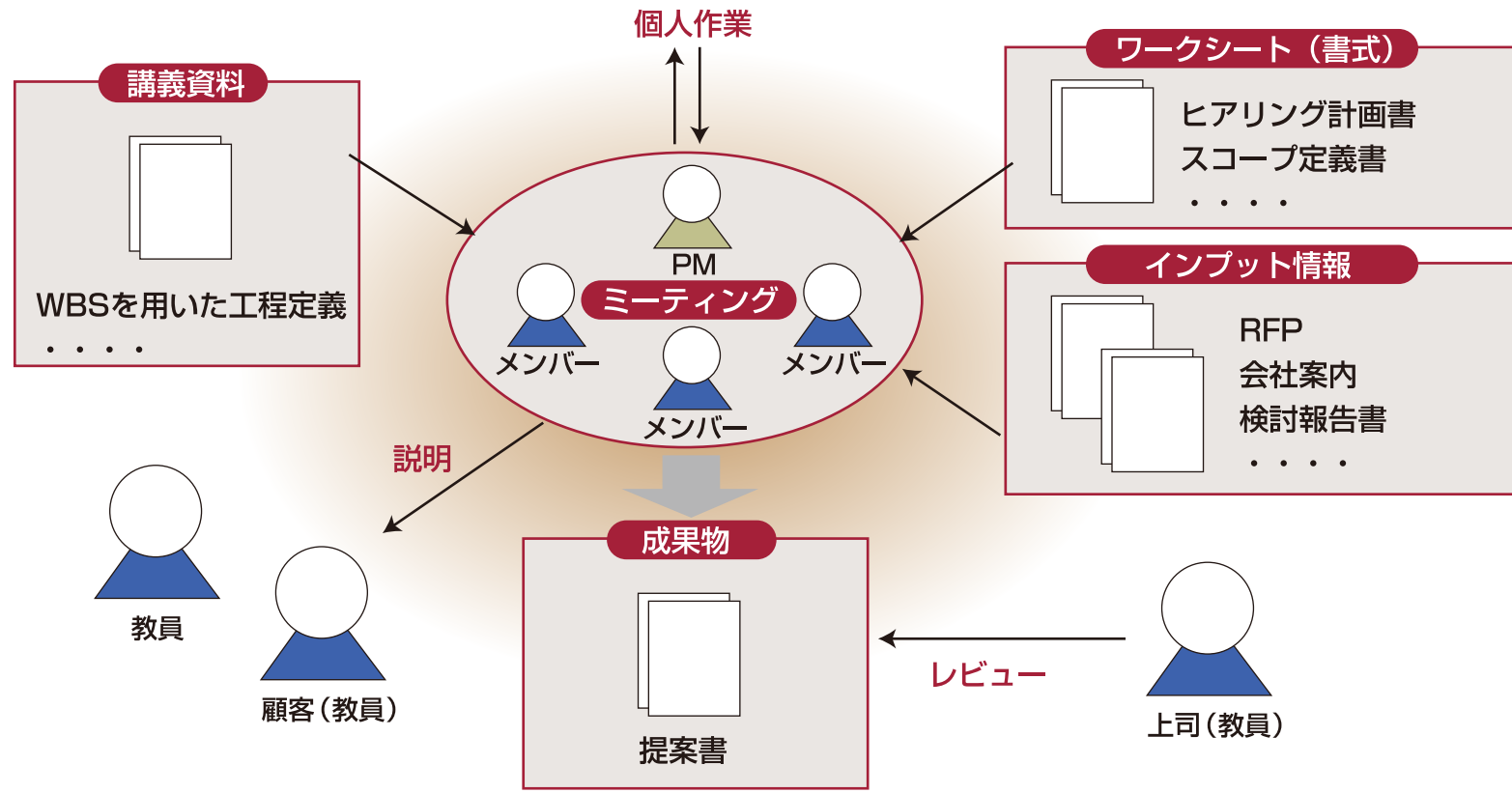


高度情報通信人材育成のためのPBL形式プロジェクトマネジメント教育

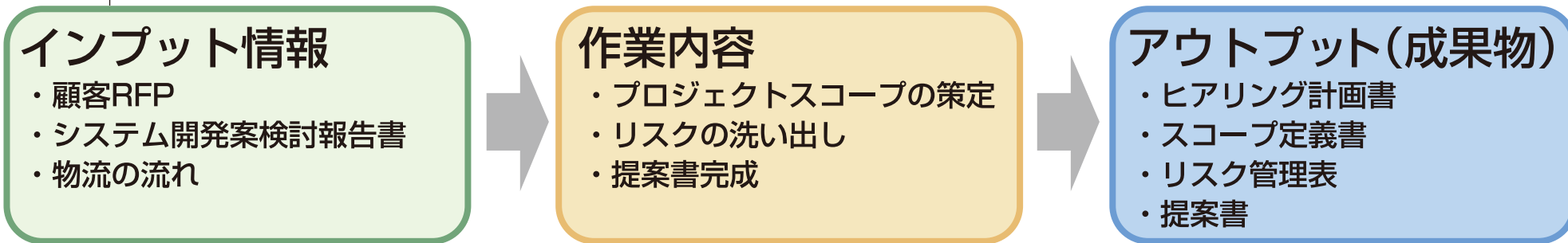
酒森PBL2008前期活動にて教材を実施後、検証・評価・講演

高度情報通信新人材育成のためのPBL形式プロジェクトマネジメント教育

・商談（提案）～プロジェクト終結まで一連の流れを擬似的なプロジェクトとして体験する



STEP 1. プロジェクトの概要分析



成果物の一例（リスク管理表）

プロジェクト名		リスク管理表		注:対策区分は「回避」「受容」「軽減」「転嫁」を記録すること	
発生確率	発生度	対策区分	発生確率を最小にするための留意点	誰が	いつ
大	中	回避	全アクセルに対して適用する要件を満たせなくなる可能性がある。	PM	提案書の顧客レビュー時
大	小	軽減	仕様変更が発生	PM	立上げフェーズから準備していただく
大	小	受容	開発途中でスコープの変更が発生	PM	要件定義終了時点

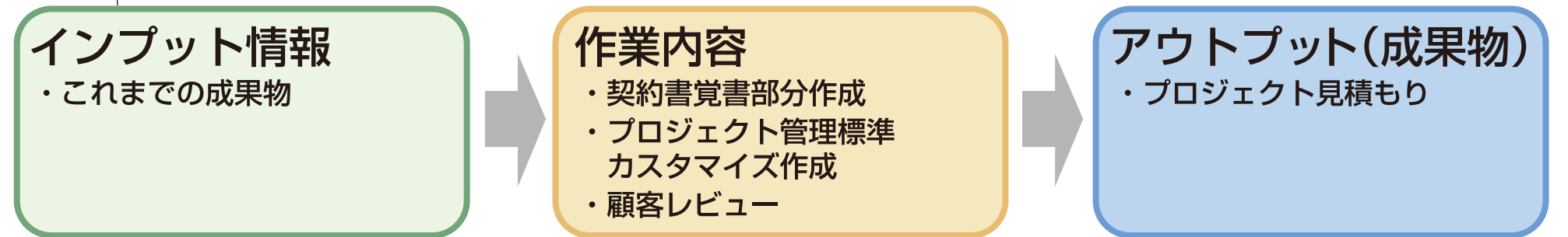
PMI Tokyo Forum 2008にて講演



開催日：2008年11月23日(日)～24日(月)
フォーラム参加者数：600名 (PMI発表)
セッション参加者数：約60名



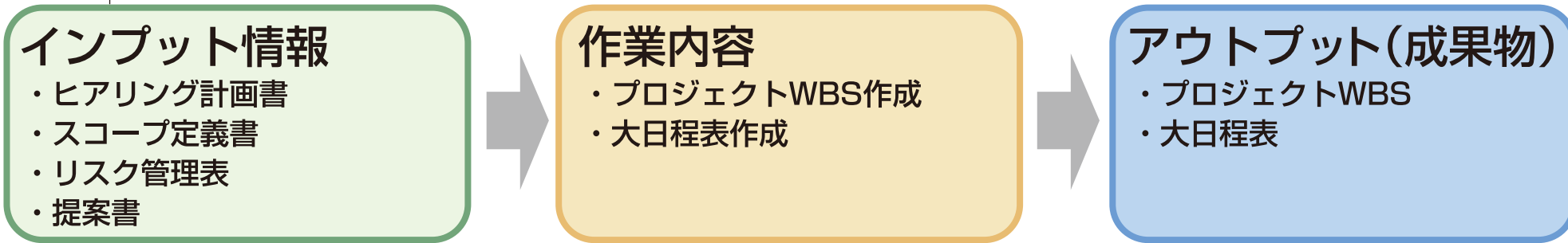
STEP 5. プロジェクト管理ルール作成



成果物の一例（工程別チェック一覧）

プロジェクト名		承認	
工程	ドキュメント番号	実施前	実施後
実施日程	レビュー参加者		
作成者			

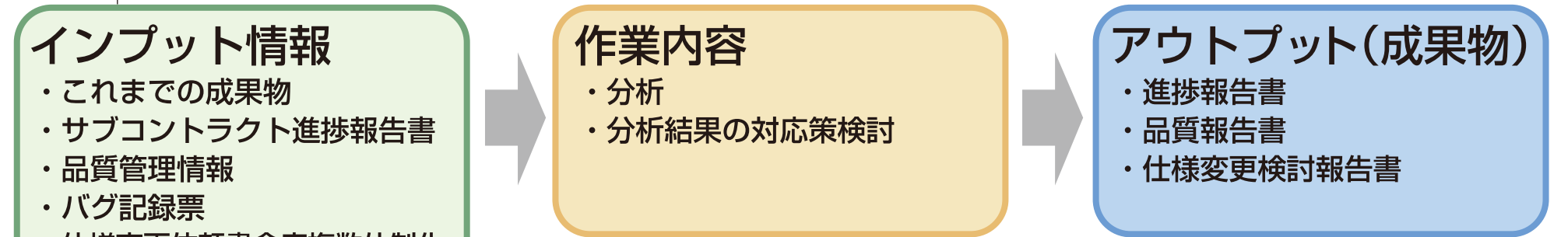
STEP 2. 工程定義



成果物の一例（プロジェクトWBS）

標準	プロセス名	作業内容	工数(人月)	担当者	承認
WBSレベル(大工程区分)	作成すべきアウトプット(成果物)				
WBSレベル(中工程区分)					
WBSレベル(小工程区分)					
A	プロジェクト管理				
A1	プロジェクト計画				
1	プロジェクト計画作成	プロジェクト計画を作成する。	0.75		

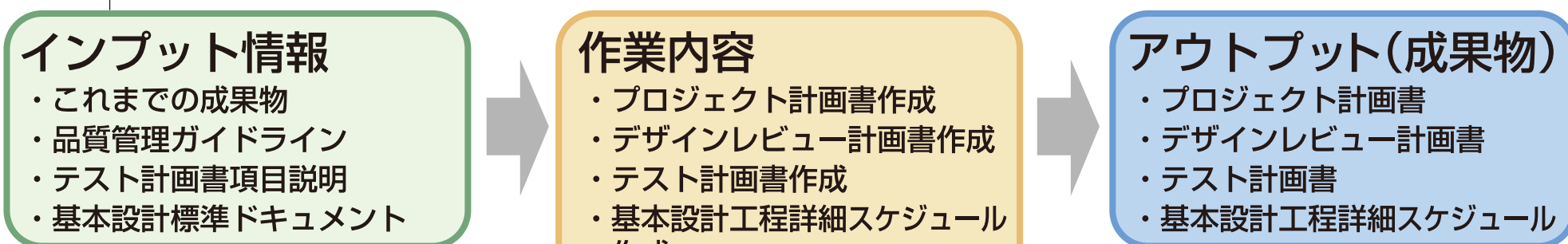
STEP 6. プロジェクト管理サイクルの実施



成果物の一例（進捗報告書、品質報告書）

品質報告書		進捗報告書	
2008年10月 PM 最終		7月14日 PM 最終	
バグ発生要因	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	予定(PV)	40 120 260 420 540 585
アルゴリズム	14 23 37 55 79 80 80 82 82 82 87	実績(AC)	40 130 264
仕様理解不足	1 10 15 30 45 60 62 65 69 73 78 81	差(EV)	40 118 228
インタフェース	4 13 25 50 101 121 175 180 193 213 235 241	コスト(CPI)	1.00 0.89 0.86
合計	19 46 77 135 225 260 317 325 344 368 395 409	スケジュール(SPI)	1.00 0.97 0.88

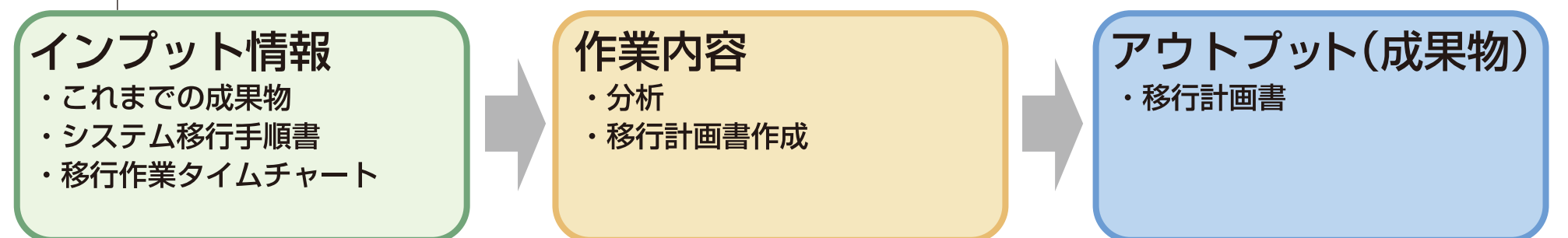
STEP 3. プロジェクト計画



成果物の一例（プロジェクト計画書）

プロジェクト計画書		承認	作成
ドキュメント No.	0.1		力丸
顧客名/プロジェクト名	株式会社ナインファイブ殿向け SCM システム構築 PJ		
1. 本システム開発の目的	経営目標		
・在庫回転率を生鲜食品・弁当で3回/日、それ以外の定置商品で1回/週を達成する。			
・最適在庫によりバックヤード倉庫在庫の効率化を実現する。			
・経営分析に活用できるデータウェアハウスの構築を確約できる			

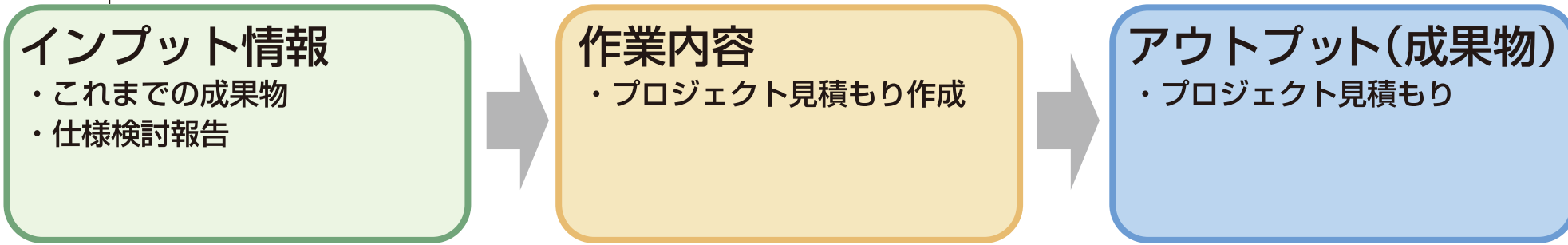
STEP 7. プロジェクト終結



成果物の一例（システム移行手順書）

システム移行手順書		作成者: 鈴木一郎	200x/m/d
プロジェクト名	ナインファイブ様新流通SCMシステム	PM承認	
移行担当者	AIT株式会社 PM xx	作業前	作業後

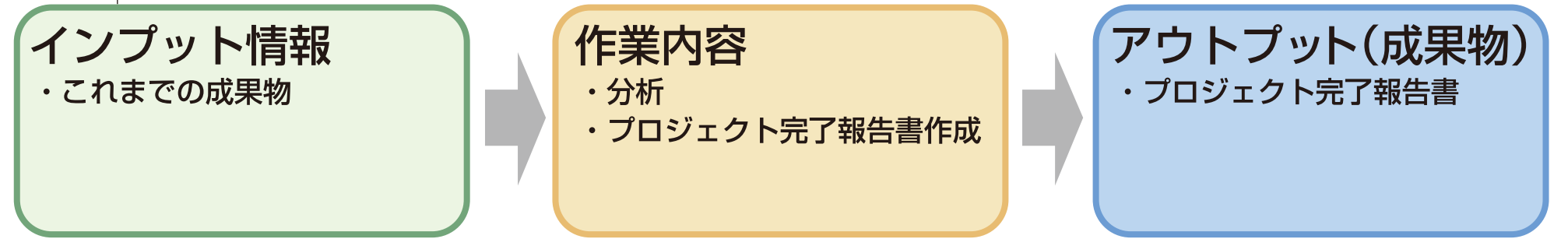
STEP 4. 案件受注のための基本作業



成果物の一例（プロジェクト見積もり）

要因	影響度判定基準			反映前	反映後
	0点	5点	10点		
1. 分散処理	単一プロセスシステムである	単一ボード上システム又は複数ハードウェアが相互に関連を持ってネットワーク上に分散している	複数のシステム又は複数のハードウェアが相互に関連を持ってネットワーク上に分散している	5	5
2. 性能要求	制約がない	一定の目標値がある	応答時間に強い制約がある	5	10

STEP 8. プロジェクトの概要分析



成果物の一例（プロジェクト完了報告書）

完了報告書						
事業部	部	課	プロジェクト名称	作成 (PM)	課長	部長

【プロジェクトマネジャー育成PBL教材概要】

- 正式名称: 「ICT分野におけるプロジェクトマネジャーの育成促進を図るためのPBL教材」
- 開発者: 総務省 情報通信政策局 情報通信利用促進課 (外部ベンダーへ委託)
- 費用: 無償 (使用希望者は総務省へ申請)
- 題材となるプロジェクト: コンビニエンスストアのSCMシステム構築
- 対象者イメージ: 技術系職種の実務経験者 (2~3年程度)
- 受講後の到達レベル目標: ICT分野のプロジェクトにおいて、プロジェクトマネジャーをサポートすることができる複数のプロジェクト経験を経て、要員数5~10名程度のプロジェクトのマネジメントを実施することができる

【プロジェクトマネジャー育成PBL教材の成果】

- 立ち上げ、計画プロセス 提案書、プロジェクト計画書、WBS→豊富なサンプルドキュメントによるドキュメンテーション能力の向上
- 全プロセス プロジェクトマネジメント能力向上(進め方、準備、停廃脱却、タイムコントロール、方向転換) 提案から終結まで、一連の作業フローが身に付く(OJTでは体験が困難)→全体最適の視点・判断力の向上
- ヒューマンスキル コミュニケーションスキル、ネゴシエーションスキル向上
- ICTプロジェクト未経験者は受講によりICTプロジェクトの特殊性が理解できる

ITプロジェクト成功率向上への調査・研究
酒森PBL2008後期活動にてインタビュー実施・調査・分析（各種業界を対象）

インタビュー結果一覧（一部抜粋）

Table with 10 columns: 質問事項, 回答内容, 回答内容, 回答内容, 回答内容, 回答内容, 回答内容, 回答内容, 回答内容, 回答内容. Contains detailed interview results across various project management topics.

熟練プロジェクトマネージャーインタビューからの教訓

(IT業界プロジェクトマネージャーへ)

リスクマネジメントの徹底

メンバー全員がリスクを意識する(メンバーに周知することも重要)
最大限の対策を行う

コミュニケーション活性化

全プロジェクトマネージャーがコミュニケーションの重要性を指摘
顔を突き合わせたコミュニケーションを重視

教育の推進

企業とメンバーのプロジェクト型業務への理解を深める
プロジェクトマネージャーのマネジメントスキル・ヒューマンスキルの向上

法整備・組織整備をすすめる

事業許可、資格、免許制度など最低要件の整備

安全衛生

建設業界では安全・品質が最重要

立ち上げ・計画プロセスの重視

フィージビリティスタディを実施する
プロジェクトの目的を明確化
体制作りで8割方成功は決まる

リーダーシップ

プロジェクトマネージャーの最も重要な素養は情熱である
メンバーのモチベーション維持・向上を意識する

IT業界プロジェクト課題への提言 SAKAMORI PBL 2008

歴史が解決するのを待つのではなく

業界を超えたプロジェクトマネージャー同士の交流をはかる
他業界のプロジェクトマネジメントの優れたノウハウ・経験を学ぶ
組織的に教訓を蓄積・展開して同じ失敗を繰り返さない